

ECB(欧州中央銀行)の包括査定結果は、概ねユーロ圏金融機関の健全性示す

【図1】 ECB包括査定は「欧州銀行同盟」への地ならし

ECB包括査定の概略とそのスケジュール



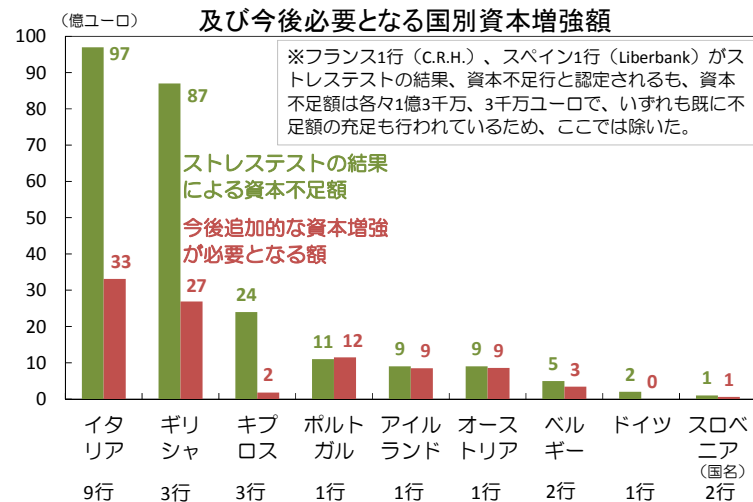
出所) ECBより当社経済調査部作成

10月26日ドイツ・フランクフルトの正午(東京時間26日20時)、ECB(欧州中央銀行)は金融機関の包括査定(ECBが来月4日からのユーロ圏金融機関の監督開始に先駆け1年かけ実施した銀行審査)の結果を公表しました。全体としては、ユーロ圏金融機関は概ね高い健全性を維持しているとの結果が示されました。

この包括査定は、ECBがユーロ圏金融機関の監督(従来は各国中銀と欧州銀行監督機構が所管)開始に先駆け実施した銀行審査を指し(図1)、世界的な金融不安に発展した欧州債務問題の教訓を生かし、より強固な金融システムを作るための枠組み「欧州銀行同盟」(銀行監督、破綻処理、預金保険機能の一元化)の地ならしの役割を果たします。具体的には、ECBの直接監督対象となるユーロ圏金融機関130行の①リスク評価、②資産内容の査定、③ストレステスト(標準的、及び極端な経済悪化の想定の下で金融機関の自己資本不足額等を計る試算)を行います。市場では特に③でどの銀行がどの程度資本不足に陥るか注目していました。

【図2】 ECB包括査定の結果は概ね良好

ECBストレステストでの国別資本不足額と金融機関数、及び今後必要となる国別資本増強額



注) 国名下の数字は、ストレステストの結果、各国の資本不足が認定された金融機関数。

出所) ECBより当社経済調査部作成

ECBは直接監督対象のユーロ圏金融機関130行のうち、ストレステストにて25行が総額246億ユーロの資本不足と認定しました(図2)。このうち、イタリアの金融機関9行は総額97億ユーロの資本不足と認定されました。もっとも、今回資本不足と認定された25行のうち、19行は今年1月以降、既に総額186億ユーロに及ぶ資本増強策を講じています。このため、この資本増強策を考慮したネットの資本不足額は13行で総額95億ユーロ(日本円で約1兆3千億円)となりました。このうち最大の資本不足行は、世界最古の銀行とも言われ、イタリア国内金融機関の総資産規模第3位の大手銀、モンテ・デイ・パスキ・ディ・シエナ銀行(21.1億ユーロ)となりました。今後6カ月、ないしは9カ月の間に追加的に資本増強が必要となる13行は、11月中旬までに資本増強計画をECBに提出することになります。

今回の結果はユーロ圏金融機関の高い健全性を示す概ね良好なものだったことから、今週以降の欧州株式市場はこれを素直に好感するとみられます。(徳岡)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はいくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問経済調査部の見解です。
また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。